



社会民主党

松本

匠
議員

▼諫早湾干拓と有明海問題について（県民だより六月号より）

Q 潮受け堤防完成で諫早平野での高潮と洪水被害はなくなったのか。

A 潮受け堤防完成後に高潮被害はないとのことであり、また十一年七月の大雨では湛水が発生したが、同日中にほぼ解消され、被害は大幅に軽減されたとのことである。

Q 開門すればガタ土が堆積するとあるが、除去はできないのか。

A 締め切り堤防が支障となりしゅんせつ船が入れないこと、また軟弱地盤で重機が入らないため、人力によるみお筋のしゅんせつを行うことになり、大変な労力を要することにすると懸念されている。

Q 開門するには旧堤防の補修や排水ポンプの設置が必要とあるが、その経過と六百八十億円の積算根拠は何か。

A 開門により調整池内の水位が上がり、老朽化している既設樋門や堤防からの塩水の進入、大雨、洪水時の排水不良による干

拓地内の湛水被害が発生する恐れがあり、旧堤防の補修や大型排水ポンプ設置の必要性があるとされている。また、開門調査実施のための対策費として、海水導入、排水による排水門の保全、背後地の防災機能の確保に約六百二十四億円、旧堤防の補修や排水ポンプの維持管理費に約五十億円、その他約七億円が見込まれているようである。

Q 干拓地の農業用水は調整池のどの部分の水を利用しているのか。また、開門時の代替水源の水量が足りない根拠は何か。

A 中央干拓地の平成諫早湾干拓土地改良区事務所近辺の揚水機場から取水しているとのことである。

防潮堰を新設し農業用水の確保や河川水の利用及び下水道処理水の利用などを検討したとのことであるが、代替水源としての利用は流量や水質等の問題があり困難であるとの結論に達したとのことである。

Q 開門すると鳴門海峡よりも早い潮流が発生し漁業被害が出るがあるが、どのような開門を考えているのか。

A 排水門を常時全開する方法を想定しているとのことである。

【その他の質問項目】

◇部制開始から今日までの評価について



政策研究会

中川

忠則
議員

▼何を実現するのか各項目につき一点ずつ述べよ

Q 活力ある本市の振興策について。

A ジオパークを活かした観光振興。

Q 教育の中で辛抱、我慢、節約することを教えながら、農地を守り、地元産業も守る若い世代を残す施策について。

A 第一次産業の振興を基本におく。

Q 需要拡大に必要な広域ネットワークの構築について。

A 交通の利便性では島原道路の出平町ー愛野町間の早期着工だと考えるが、実績として1kmあたり四十億円程度かかっている。

Q 本市の総生産額が千三百四十三億円で、借金が百九十六億五千九百万円で比率が約十五％で、国の約百八十％より低い、伸び悩む島原市の経済について。

A 借入金の余力はあるようにみえるが、毎年市民サービス向けの新規予算を組むほどの余裕はない。

▼ふるさと納税について

Q どのように入ってきているのか。

A 市役所での直接寄附、郵送での寄附、指定金融機関への振込による寄附がある。
Q お礼の気持ちはどのようになっているか。

A 市長が先に電話でお礼を述べ、その後お礼状と一定額以上の寄附者には、市の特産品を送っている。
Q どのように利用されているのか。
A 地域の活性化、歴史遺産保全等に活用。

▼部長制、グループ制導入の実情について

Q 窓口での対応が悪いとの声を聞くが、市民側に立って対応することに意識を変えることが、今回のグループ制導入の目的ではないのか。

A 意識改革の一番の原点である住民の立場に立つてのサービスをするという視点での意識改革を図る。

▼スポーツ振興について

Q オリンピックの候補選手ぐらいに委託して基礎運動の指導をしたらどうか。

A 小学校では、各学年に応じた指導をしている。中学校では、授業に陸上競技の位置づけでの指導をしている。

Q 小、中学校運動会について、先生方の働く機会が少ないようだが。

A 子供たちの自主的な活動を育てる場ととらえている。

▼桜門町井上ストアー湧水の活用について

Q 武家屋敷と関連させてはどうか。

A 観光客も立ち寄られるとお聞きしたので、今後協議をさせていただく。